

テュートリアル課題 咳が止まらない

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/29103

2008年度 Block. 6

課題 No. 6

課題名：咳が止まらない



一切で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください

シート1

上杉信玄さんは50歳の男性です。生来健康で今までに会社の健康診断でも異常を指摘された事はありませんでした。

昨日、2ヶ月間にわたるベトナム出張から帰国しました。帰国する3週間程前から続いていた咳や痰が気になっていましたが、単なる風邪だろうと思い、市販の風邪薬を飲んで様子を見ていました。しかし、なかなか良くなり、病院を受診しました。

病院では医師との医療面接と共に様々な検査が行われました。

提示資料

- 1) 患者病歴(資料 1)
- 2) 血算・血液生化学(資料 2)
- 3) 胸部エックス線(資料 3)

シート2

胸部エックス線で異常を指摘された上杉さんは、精密検査を受けることになりました。その結果、入院治療を勧められました。

提示資料

- 1) 胸部エックス線(資料 3)
- 2) 胸部 CT(資料 4)
- 3) 気管支鏡所見(資料 5)
- 4) 細胞診検査所見(資料 6)
- 5) ツベルクリン反応(資料 7)
- 6) 抗酸菌検査(資料 8)
- 7) 腫瘍マーカー値(資料 9)
- 8) 動脈血ガスデータ(資料 10)
- 9) C T下肺生検(資料 11)
- 10) 脳 MRI(資料 12)
- 11) 骨シンチ(資料 13)
- 12) 心電図(資料 14)
- 13) 肺機能検査所見(資料 15)
- 14) PET(資料 16)

シート3

主治医から病名は肺癌であり、転移が見つかったので手術は出来ないと説明を受けました。上杉さんはその事実を信じる事ができず、戸惑い、落ち込み、悩みました。

“このまま自分が働けなくなってしまうと家族は生活していけるのか・・・。”

“休職することで同僚にも迷惑をかけてしまうな・・・。”

そして、主治医とよく話し合った結果、治療に専念することにしました。

提示資料

- 1) 脳MRI(資料 12)
- 2) 骨シンチ(資料 13)
- 3) PET(資料 16)

・“このまま自分が働けなくなってしまうと家族は生活していけるのか・・・。”

“休職することで同僚にも迷惑をかけてしまうな・・・。”

→壮年期の罹患による、社会的、経済的影響について理解できる (B-1)

シート4

治療を終えて退院してからは、仕事と通院の日々が続いていました。半年過ぎた頃から腰痛と下肢の痛みや痺れ、脱力を自覚するようになり、痛みに加えて不安で夜も眠れなくなってきました。そして、痛みがより強くなってきた為、再度の入院となりました。

入院後、緩和ケア担当医による診察を受け、色々な内服薬が処方されました。“痛みがあるようでしたら我慢なさらずに仰ってください。痛み止めの薬には副作用もありますが、それに対する処置もしていきます”との説明に上杉さんはちょっと安心しました。

提示資料

1) 腰椎 MRI (資料 17)

シート5

鎮痛薬の内服と他の疼痛緩和療法の結果、下肢の脱力はあるものの痛みは徐々に軽くなりました。退院できることになった上杉さんは在宅治療に向けての手続きを始めました。

提示資料

なし